はしがき

本書は、NHK 国際放送の番組 *NHK NEWSLINE* の映像を基盤に作成した、大学生向けの英語ニュース教材です。

NHK 国際放送のニュースは、日本の話題をあつかったものや、日本と関連する話題をあつかったものが多く、海外ニュースよりも内容的に親しみを持ちやすいという魅力があります。海外放送局のニュース教材とは一線を画すこの特徴を活かして、身近な話題を入り口に、英語と向き合える一冊を目指しました。

題材の選定にあたっては、分野の多様性、英語の授業であつかう必然性、学習者への親近感、そして英語の多様性という 4 つの基準を設けました。

従来のニュース映像教材といえば、スクリプトの穴埋めを思い浮かべる方も多いでしょう。しかし本書では、あえてその形式を採用せず、映像をもっと違う切り口であつかえないかという模索から出発しました。語彙や文法の知識を身につけることはもちろん、「聞く」「読む」「話す」「書く」の 4 技能を統合的に活用しながら、最終的には学生の皆さんが自ら考え、主体的に発信していく新しい学びのスタイルを構築することをねらいとしています。

各ユニットの最後には、ライティングの活動を置いています。この活動では、生成 AI（GenAI）の使用を前提としました。AI が身近になった今、使うか使わないかを議論するよりも、AI に任せきりにするのではなく、その中でどうすれば着実に英語力や考える力が身につくのかを問うことが重要だと考えたからです。AI を活用しつつも、自分の考えを持ち、自分の言葉で発信する力を育てる指導と学習の道筋を、著者一同で模索しました。

本書の対象レベルは CEFR A2 ～ B1 です。このレベルの学習者が安心して取り組めるよう、指示文、語彙、文法説明、コラムはすべて日本語としました。ニュース英語は難しいという印象をお持ちの方も、まずは映像を見て、日本語の助けを借りながら、少しずつ内容を理解していってください。

本書での学習を通して、ニュースを「見て終わり」にせず、そこから感じたこと、考えたことを英語で伝える面白さを味わってほしいと切に願っています。

最後になりましたが、本書の企画から刊行に至るまで、終始温かいご支援とご助言をくださった金星堂編集部の皆様に、心より感謝申し上げます。

2026 年初秋

編著者一同

本書の構成

各ユニットでは、英文読解（リーディング）とニュース映像視聴（リスニング）を軸に、語彙や文法・表現の学習に加え、背景知識の獲得、要約、発信活動までを通して、英語の 4 技能を総合的に伸ばしながら、テーマについて理解を段階的に深める構成になっています。

Getting into the Topic

各ユニットのテーマに関する身近な質問について考え、クラスメイトと意見を共有します。リーディングや映像視聴に入る前に、自分の知識や経験とテーマを結びつけ、学習への関心を高めます。

Expanding Your Vocabulary

このあとに取り組むリーディングや映像に登場する重要語句の意味を確認します。あらかじめ語彙を身につけておくことで、その後のリーディングや映像の内容をよりスムーズに理解できるようにします。

Reading for Comprehension

ニュースに関する英文を読み、内容理解問題に取り組みます。英文は、ニュース映像の内容をもとに、客観的な文体で 250 語程度にまとめたもので、映像で使われている表現もできるだけ生かしています。ニュース映像を見る前に、テーマや登場人物についての基本的な情報を英語で理解し、その後の映像理解につなげます。

1st Viewing

語彙や背景知識などの下ならしができた段階で、はじめてニュース映像を視聴します。選択問題や空所補充問題に取り組みながら、リーディングで得た情報も活用して、実際のニュース英語の理解を深めます。

Tips for LISTENING

ニュース映像の中で使われている英語を題材に、リスニングのポイントを学びます。音の変化や話し言葉に特徴的な表現など、自然な英語を聞き取るために役立つ知識を身につけます。実際の映像音声を繰り返し聞きながら、ポイントとなる箇所を集中的に確認します。

Grammar and Expressions

Grammar では、リーディングやニュース映像に登場した英文をもとに、重要な文法事項を確認します。単に正解を選ぶだけでなく、その答えになる理由をペアで話し合うことで、文法に

ついて自分で考え、説明する力を養います。
次の **Expressions** では、これまでに登場した重要表現を、別の文脈で使う練習をします。日本語を手がかりに英文を完成させることで、本文中で理解した表現を、自分でも使える知識として定着させます。

Beyond the Text

ユニットで扱ったテーマをさらに掘り下げ、その背景にある社会・文化的な話題や関連する知識・考え方について説明したコラムです。リーディングやニュース映像の内容をより広い視点から捉え、テーマへの理解を深めます。

2nd Viewing

ニュース映像をもう一度視聴し、その内容を要約した英文の空所を補います。1st Viewing よりも細部に注意して映像を確認しながら、重要な情報や表現を聞き取るとともに、ニュース全体の内容を英語で整理します。完成後はペアで解答を確認します。

Express Yourself

ユニットで学んだ内容や表現をもとに、生成 AI を活用しながら英文を推敲し、最終的に自分の英語としてまとめ、発信する活動です。次の４段階で進めます。

STEP 1 まず自分で英文を作成します。

STEP 2 生成 AI に条件を指定して、自分の英文を推敲させます。

STEP 3 生成 AI が提示した修正案をそのまま受け入れるのではなく、修正理由や別の表現について質問しながら対話を重ねます。

STEP 4 最終版を完成させます。
最後にペアで発表し、AI との対話から学んだことを振り返ります。

※生成 AI は各学校・大学の利用方針や利用環境に応じて、使用が認められている生成 AI をご使用ください。

※授業時間には限りがありますので、すべてのステップを授業時間内に行う必要はありません。例えば、STEP 1、2 と STEP 3 の途中までを授業内で行い、AI との対話の続きと STEP 4 の最終版作成を宿題とするなど、授業時間や学生の習熟度に応じて、各ステップにかける時間を調整してください。

※ **生成 AI を使用しない場合**　授業方針や学習環境に応じて、生成 AI を使用せずに実施することもできます。その場合、STEP 2・3 をペアまたはグループでの英文チェックに置き換えてください。学習者同士で英文を読み合い、①文法や語句の使い方、②内容の分かりやすさ、③より自然な表現がないか、などを確認します。必要に応じて教員がフィードバックを行い、それをもとに STEP 4 で最終版を作成させてください。

JAPAN SCOPE

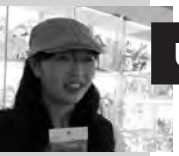
CONTENTS



Unit 1 **Making Fans of Osaka Through English Tours**
大阪城を英語でガイドする小学生 ［3 分 47 秒］…… 1



Unit 2 **From Hiroshima to Seattle**
—A Student's Challenge for Peace
シアトルの「禎子」像再建を目指す高校生 ［3 分 38 秒］…… 7



Unit 3 **Pop Culture Bridges Japan and South Korea**
韓国の若者を魅了する日本のポップカルチャー ［4 分 38 秒］…… 13



Unit 4 **Smiles Through Music**
—A Student's Mission in Fiji
音楽で笑顔を—フィジーで挑戦する大学生 ［3 分 08 秒］ …… 19



Unit 5 **A Pioneer in Asakusa's Streets**
浅草を駆ける注目の女性人力車夫 ［3 分 14 秒］…… 25



Unit 6 **Preserving the Wajima Tradition,**
One Piece at a Time
「輪島塗」の修復を震災復興のシンボルに！ ［3 分 18 秒］…… 31



Unit 7 **The Telephone in the Age of Texting**
電話が苦手な若者たち ［3 分 30 秒］ …… 37

from *NHK NEWSLINE*

Unit 8 **Crafting Light—The Soul of Aizu Lenses**
福島発「Aizu」レンズで映画に革新を！［3分45秒］…… 43



Unit 9 **Pure Passion, Sharp Edge**
15年ぶりに誕生した若き刀匠の挑戦 ［3分18秒］ …… 49



Unit 10 **Building a Better Workplace for Women —and Everyone**
女性が輝く職場づくりとは？ ［2分52秒］ …… 55



Unit 11 **The Talent Hunt —Bridging Careers Across Borders**
国境を越えた人材発掘ー茨城県の挑戦 ［3分39秒］ …… 61



Unit 12 **Tiny Cars, Giant Tech —The Machining Revolution**
町工場発の“規格外”ミニ四駆が万博へ ［3分50秒］
…… 67



Unit 13 **From Technical Trainees to Global Partners**
元実習生と築く、インドネシアの日本食ビジネス ［3分53秒］
…… 73



Unit 14 **Can AI Be Your Colleague?**
同僚は AI? — 変わる私たちの働き方 ［3分15秒］ …… 79



Unit 1

Making Fans of Osaka Through English Tours



大阪城を英語でガイドする小学生

Getting into the Topic

1. 英語を話せるようになると、どんな良いことがあると思いますか。

2. 海外留学に行かなくても英語を流暢に話せるようになることは可能だと思いますか。もし可能なら、どのような方法があると思いますか。1 と合わせて、クラスメイトと話し合いましょう。

Expanding Your Vocabulary

1 〜 **10** の語句について、**a** 〜 **j** の中からもっとも意味の近いものを選びましょう。

1. embrace 動	(　)	**2.** spit 動	(　)
3. gather 動	(　)	**4.** engage 動	(　)
5. increasingly 副	(　)	**6.** description 名	(　)
7. signature 形	(　)	**8.** tilt 動	(　)
9. diplomat 名	(　)	**10.** insight 名	(　)

a. 〜を傾ける　**b.** 外交官　**c.** 描写、説明
d. 〜を進んで受け入れる　**e.** 特徴的な、代表的な　**f.** 集まる
g. かかわる、参加する、〜を利用する　**h.** ますます、だんだんと
i. 洞察・深い理解　**j.** 〜（つばや食べ物など）を吐く

Reading for Comprehension

DL 02 CD 1-02

次の文章を読んで、以下の問題に答えましょう。

Osaka Castle remains a must-see for many visitors, offering a fresh perspective through the eyes of a unique volunteer: a 10-year-old elementary school student, Tateno Takuya. While many visit for its historic buildings, Takuya provides an inspiring guided tour in fluent English, encouraging visitors to embrace the history and keep an eye out for details.

Takuya's journey is special because he has never been overseas; he mastered the language mainly through CDs and picture books. Driven by a desire for real conversation, he carried out his own research and created hand-drawn descriptions to help tourists become "fans" of the city.



His tours are known for engaging storytelling and his signature quizzes. He explains the *shachihoko*—the mythical "fin-like" roof decorations believed to spit water when they see fire. At the giant gate, he asks tourists to identify the "octopus stone" from its unique patterns, often prompting them to cry out, "It has to be the octopus!" in excitement.

For Takuya, these interactions are a "happy time" where he can pass on Japanese history to others and share his knowledge. As he perfects his skills with the dream of becoming a diplomat, he continues to educate international guests with his expert insights.

Notes ℓ.1 must-see「必見のもの」　perspective「視点」　ℓ.10 storytelling「語り聞かせ」
ℓ.12 mythical「神話的な」　ℓ.14 prompting 人 to ~「人に～を促す」

1. 本文によると、10 歳のボランティアガイドである Tateno Takuya さんは、どうやって英語を習得しましたか。もっとも適切なものを 1 つ選びなさい。

a. 幼い頃に、海外の国に暮らしながら学んだ。
b. 毎日、オンラインの英会話レッスンを受けて学んだ。
c. 英語の CD を聴いたり、絵本を読んだりして学んだ。
d. 観光地で外国人と英語で会話をしながら学んだ。　[　　]

2. Tateno Takuya さんがガイドとしてのスキルをさらに向上させようと努力しているのはなぜですか。彼の将来の夢に触れて簡潔にまとめましょう。

1st Viewing

online video

映像を見て、次の問題に答えましょう。

1. Why did Takuya start working as a volunteer guide at Osaka Castle?

a. He felt it was necessary to get used to foreign languages before studying abroad.

b. He wanted to practice his English by talking with real tourists, not just his teachers.

c. He needed to submit a report about Osaka Castle for his history class at school.

d. He wanted to earn money as a guide to buy new English CDs and picture books.



2. Choose the correct statements about Takuya's guided tour. Select all that apply.

a. He gives free guided tours of Osaka Castle a few times each month.

b. He explained the history of Osaka Castle to a group of Chilean tourists.

c. He explained that the giant stone by the castle gate came from Germany.

d. He used three options—octopus, turtle, and pig—in a quiz about the stone.

e. He told tourists to tilt their heads sideways to see the shape on the stone.

3. Fill in the blanks.

Takuya was happy when tourists were _____ and understood, and showed an _____ in Osaka Castle.

Tips for LISTENING　フィラー（Filler）

DL 03　CD 1-03

実際の英会話では、言いたいことをすぐに言葉にできないこともあります。話しながら考えたり、適切な言葉を探したりするときに、「ええと」「その～」にあたる言葉を使うことがあります。このような言葉を フィラー（filler）と呼びます。次の英文の下線部に使われているフィラーを聞き取って書きなさい。

1. "The *shachihoko* is a legendary creature that spits out water when it sees fire. _____ ..."

2. "What is the name of this stone? _____, number one: octopus stone."

3. "When you do this, _____, when you tilt your head sideways, _____, you can see some sort of round thing with lots of dots."

Grammar and Expressions

Grammar 日本語訳を参考にしながら、（　）内から適切な関係代名詞を選び、その理由をペアで話し合いましょう。

1. 大阪のことをよく知らない人に、もっと魅力を知ってもらって、大阪のファンになってもらいたいです。

I want people (who / which) don't know much about Osaka to learn more about it and become fans of the city.

2. しゃちほこは、火を見ると水を吐き出すと信じられている生き物です。

The *shachihoko* is a legendary creature (who / that) spits out water when it sees fire.

3. それは、当時その城を所有していた将軍が、自らの権力を誇示するために展示したものと考えられています。

It is thought to have been displayed as a show of power by the shogun (who / what) then owned the castle.

Expressions 日本語訳を参考にしながら、本文（p. 2）で使われている表現を使って、次の英文を完成させましょう。

1. 森をハイキングするときは、野生の動物がいないか注意する必要があります。

When hiking in the forest, you need to _____ _____ _____ out for wild animals.

2. その科学者は、新しいエネルギー源を見つけたいという強い願望に突き動かされています。

The scientist is _____ _____ a strong desire to find a new energy source.

3. 私たちはその計画を実行する必要があります。

We need to _____ _____ the plan.

4. 赤ちゃんはお腹が空いたので、泣き叫びはじめました。

The baby started to _____ _____ because he was hungry.

5. お気に入りのバンドがステージに登場すると、ファンたちは興奮して飛び跳ねました。

When their favorite band appeared on stage, the fans jumped up and down _____ _____.

Beyond the Text

英語学習を支える「伝えたい」という気持ち

英語学習を成功させる秘訣は、「英語を学んで何がしたいか」という目的意識だと言われています。英語を勉強していても、使う場面や目標が見つからなければ、学習を続けるのは簡単ではありません。一方で、「好きなことを外国の人に伝えたい」「世界中の人と交流したい」といった思いは、大きな原動力になります。大阪城で英語ガイドを行う立野拓也さんも、「大阪をもっと知ってほしい」「大阪のファンを増やしたい」という思いを持ちながら英語を学び続けてきました。

実際に、外国語教育学や心理学の分野では、このような学習を支える気持ちを「動機づけ (motivation)」と呼びます。学習者自身の興味や目標が明確であるほど、学習への意欲は高まり、より大きな成果につながることが知られています。拓也さんにとって英語は、試験のための科目ではなく、人とつながり、自分の好きなものを伝えるための手段でした。だからこそ、海外留学の経験がなくても、高い英語力を身につけることができたのでしょう。英語学習を成功に導く鍵は、「伝えたい」という気持ちの中にあるのかもしれません。

2nd Viewing

online video

下の英文はこのニュースの要約です。もう一度映像を見て、英文中の下線部に入る適切な英単語を考え、解答を記入しましょう。そのあと、ペアで解答を確認しましょう。

Ten-year-old Takuya works as a volunteer guide at Osaka Castle. He speaks [1] **f**_____ English, even though he has never been abroad. He learned the language mainly through CDs and picture books. Because he wanted to have real [2] **c**_____ with foreign tourists, he started guiding. He carried out his own [3] **r**_____ and created hand-drawn [4] **d**_____. His tours are popular for his interesting explanations and quizzes, such as asking visitors to guess the “octopus stone.” He feels happy when he shares Japanese history with people from other countries. As he continues to improve his guiding [5] **s**_____, he dreams of becoming a diplomat.

Express Yourself

あなたの町や地域の魅力を 1 つ選び（例：名所・観光地、食べ物、文化・伝統、自然、イベント）、英語で紹介してみましょう。

STEP 1 **次のテンプレートを使い、あなたの町や地域の魅力を紹介する英文を 80 語前後の英語で書きましょう。**

☞ 可能であれば、拓也さんの “Octopus Quiz” のような簡単な質問やクイズを作成してみましょう。

I want to introduce _____ in(of) my hometown.

It is a _____.

I love(like) this _____ because _____.

Well, I have a quick quiz. _____

_____.

STEP 2 **自分の英文を生成 AI に入力し、次の①〜③の指示内容を入れて修正版を作成させましょう。**

①英文のテーマ	これは「私の町や地域の魅力」について私が書いた英文です。内容や意見はできるだけ変えずに、より自然で正しい英語に修正してください。
②英語のレベル	語彙や表現が TOEIC400~500/CEFR A2 レベルに適しているか確認し、難しすぎる表現があれば、よりやさしい表現に修正してください。
③キーワードと語数	修正後も全体が 80 語前後になるようにしてください。

STEP 3 **AI の修正内容について、「なぜここを直したのか」「他の言い方はあるのか」「自分の表現の方が良いのではないか」など、疑問に思った点を質問し、納得できるまで対話を行いましょう。**

☞ AI との対話履歴は保存し、担当者の指示に従って提出しましょう。

STEP 4 **以上の結果をふまえ、最終版を作成しましょう。ペアになり、相手を外国人観光客に見立てて、自分の町や地域の魅力を 1 分間ずつ紹介し合いましょう。また AI との対話から学んだこと（文構造や表現、構成など）を簡単に書きましょう。**

AI との対話から学んだこと